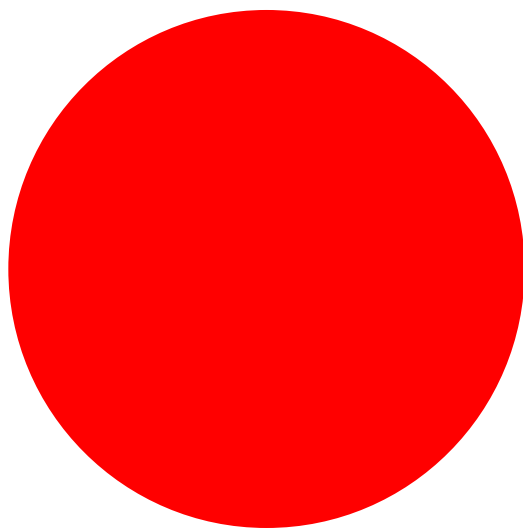


明けてまして  
お芽出とつづいでいます



令和四年壬寅  
ひの心を継ぐ会  
会長 三浦 夏南  
事務局 一同

第 46 号  
月 1 回 発 行  
ひの心を継ぐ会  
〒799-1336  
住所:愛媛県西条市  
上市甲 720-1  
TEL:080-2986-0856

綱 領

- 私達は明德を明らかにします
- 私達は国家の鎮護となります
- 私達は大和世界を建設します

古事記

竹葉 秀雄

宇宙の創始

— 実在—(四)

神秘的な方法(ロ)

特にプロティノスについて

このプラトンのイデア論に対するアリストテレスの非難の中心は、イデアが現実の個物を離れ存する為めに、却て個物の存在の根拠と考えられるイデアが個物を根拠付けることが出来ないという矛盾にある。而してアリストテレスは此イデアの超越離在と個物のイデア分有との困難を避ける為、イデアを個物に内在するものとし、更に個物が潜勢態から現勢態へ発展する運動に由って本質(アリストテレスは内在的イデアを本質と呼ぶ)を実現するものと考え、且個物がそれに固有の本質を有しなければならぬ所から、本質は第一義的には個体的であると思惟した。

これに対して、プロティノスは此アリストテレスの思想を以てプラトンのイデア論を修正しながら、アリストテレスの発展的動的内在主義に対して、本来のプラトンのなる超越的統一の原理としての善のイデアを維持し個体のイデアとしてそれに固有なる活動の円現を表わす個々のイデアが一として統一せられるのは、統一の原理としての一者に依ると考えて、善のイデアを斯る一者と解した。従ってプロティノスの一者は超越的であると同時に内在的である。一者は多の限定を超え

るものであるから無規定であり、最高の概念的規定たる思惟と存在との対立を  
も超える。従って斯る絶対者を捉えるには凡ての反省思惟を超える神秘的直観に  
於て絶対者と合一するのでなければならぬ。一者たる神を觀るとは個体が自己に  
対立する神を觀るのではない。個体としての限定が消えて其絶対の本源たる一者  
が現れるのである。個体が神を觀るのではなく、神が個体に於て自己を觀るのであ  
る。所謂脱我(忘我)というの是我が消えて斯かる一者の本源が現れる事に外な  
らない。斯くて既にプラトンのエロス(愛)の説に含まれた神秘主義が典型的なる  
形に發展完成せられたのである。前述せる天之御中主神、天照大御神、八百万神  
の世界がいよいよ明かにされたのである。

プラトンの哲学の中には既に在ったものである。前のプラトンのイデア論を深く  
読めば明かである。然しアリストテレスが個体を主にしてプラトンの論説の足らざ  
るところを叩いたことよって、プロティノスによつてプラトンの真意が明かにされ  
完成されたのである。西洋人は異説を立てて自己を主張することを好む点、述べ  
て作らずとする東洋より強いのではないかと思う。

## 農士道

### 第五章 農士論

#### 第一節 農道的立志

## 菅原 兵治

### 南瓜と白菜

之と相似たる事は實際の農作に従事する者に取つては常に経験する処である。  
私の処に川原に面した沙地の畑がある。昨年之に南瓜を作つたが、今年は白菜を  
播いた。すると去年、鳥がつついて食い散らした南瓜の種子が具合よく発芽して立  
派な南瓜の蔓を出していた。其のままにして置けば結構な南瓜の実を結ぶことは  
十分わかっている。然しそうすると白菜が駄目になる。すでに今年は此の畑に白菜  
を作ると「志」を立てて耕作を始めた以上は、矢張り其の「志」に従つて南瓜を取  
除かねばならぬ。涙を揮つて馬謖を斬らねばならぬのである。私共が何に志すかと  
いうことは、かく人生の全体を支配するものである。畏るべく、慎むべきは実に「立  
志」ではないか。かくて其の「志」を何に立つるか、換言すれば如何なる生活の中に  
士道を実現するかによつて、武士とか文士とかいふ別を生じて来るのである。い  
までもなく、武士とは武的生活の中において士道を実現せんとするものであり、  
文士とは、文的生活の中において士道を実現せんとするものの謂である。禅士、力  
士、学士、弁士等皆然りである。然かも近來士道の類廢は、名は何々士と謂いな  
がら、其の実功や利のみに目をつけ、金を獲んが為に「学士」になり、名を獲んが為  
に代議士になる者があるというのでは、仮令名称は如何に学士であろうと、代議士  
であろうと、それらは已に「士」というには当らぬ存在に墮しているものである。で  
は利士、欲士かと戯れにいう者があるかも知れぬが、利や欲は志によつて統御せら  
るべきものであつて、決して「士」たるの「心」たる「志」ではない。君君たり、臣臣  
たりという古訓があるが、志と利欲との関係も其の通りで、君臣の分の嚴として  
存するが如く、「志」・「欲」の分も亦嚴然たるものがあるを要する。如何に臣たる  
者が体軀が大きい、衣装が美しいからといって、君の上に立つことは許されぬ  
と同様、利欲は畢竟「志」によつて統御せらるべきものである。

### 農士の生活

かくて農士とは何ぞやということはおのずから明かになつたことと思ふ。即ち、  
農的生活の中に士道を行ずるものの謂である。深く「農」の道義的本質を証悟し、

切に「農」の歴史的社会的使命を自覚し、堅く期する処あって之に志し、一時の遇不遇や、時勢の流行や、其等外界の雲霧に對して、屹然として自立し、自らの高き志に向つて其の進むべき道を失うことなく、金剛不壞の道義的精進を続けるもの謂である。

然るに、斯る眼を以て現下の農村人を見る時、此の農士の態度を持する者幾何ありや。農を業としながら自ら農を侮り、名利の為には何時でも之を捨てて他に走らんとする無節操、無信念の徒の如何に多いことであろう。或は終生之に従うと雖も、何等の感激ある「志」もなく、唯「親の代からの百姓だから仕方がないが」「外に別にやれる仕事もないからまあ百姓でも……」という程度の生活で、其処には何らの感激も発奮もなく、文字通りの醉生夢死である。葉隠にいう「武士道とは死ぬことと見付けたり」と。南洲の「命もいらす、名もいらす、官位も金もいらぬ人は仕末に困るものなり。此の仕末に困る人ならでは艱難を共にして国家の大業は無し得られぬなり」という覚悟は、格別武士や国士のみの覚悟ではない。苟くも士的生活を行ぜんとする者に取つては、何人にも切要欠くべからざること、農士の生活も亦然るべきである。自らが精魂を打込んでやろうとする農道的志念の為には、一切を捧げ盡して行じ抜く処にこそ、始めて士的生活に燦たる光明を発するのである。吉田松陰の士規七則の中にも「死而後已の四字、言簡にして義広し。堅忍果決、確固として抜くべからざるもの、是を舍いて術無きなり」とあるが、農士道というも、この一生懸命の心を以て、道によって農生活を行じ抜くことに外ならないのである。此点に就いて私は大原幽学が其の門人に向つて職業二重を厳禁し、人間が単なる目前の「利」によりて業を二にすることを戒めたことは確かに非凡なる見識だと思ふ。

(註)大原幽学は二宮尊徳と同時代の農村指導者。尾張藩の家老の息と伝えらるるが終生出仕せず、後半生を千葉県香取郡中和村におくり、深く山沢に蔵して地方農民を指導し、門人となつて化を蒙れる者三千人といわれる。今日に至るまで其の地方一帯は其の教を伝え、衣食住風俗施設一切に涉つて其風が醇乎として猶存している。

## 熊野訪問

三浦夏南

新たな一年の始めに、今月は熊野のむすびの里を数年ぶりに訪問しました。今回訪問したのは、今年発足予定の「日本自治会」について代表の荒谷先生から直接お話を伺うためです。過剰な西洋近代化と我が国の本質を忘却した物質的繁栄によつて歪んでしまった我が国のあり方を本の正しい道筋に還そうと農本自治に志す人々は全国に点在していますが、それらの有志を結び付けて行く動きは今まで必要とされながらも、完全には行われて来ませんでした。今回、熊野の地にて自ら農を本としながら、文武に鍛錬し、全国の人々を指導されている荒谷先生が「日本自治会」を立ち上げられることは我が国にとって大きな意味を持つものであり、同じく農本自治に志す我々にとって大変喜ばしいことです。これからのような形で会が進んで行くのかはまだ未定ですが、愛媛の地から我々出来る限りの協力をしていきたいと考えています。

自治の運動はその性質上、各々がそれぞれの場所で実地に築き上げて行くものなので、互いに学び合い、協力するということが行われ難いものです。しかし。現在我が国を始めとして世界中が金融資本に分断され、支配されている状況にあっては、それぞれの場所での活動だけではなく、相互の協力が不可欠の要素となっております。全国の人々が連帯しなければ、資本主義の支配下から離脱し、自立することは極めて難しいことです。そのためにはまず、皆が一つの場に集まり、腹を割って話し合うことが必要です。今回、そういう場が生まれようとしていることは素晴らしいことだと思ふ。我が国にとって議論すべきことは山積しています。それは単に論じて解決する筋合いのものではなく、論じた上で実践し、そこで浮かび上がった課題を再び研究討論することが必要です。それが自治共同体という世代を超えたものである以上、数年のスパンではなく、一世代数十年を基本単位として考えて行かなければなりません。その道は遠く深いものですが、だからこそ全国の叡智を集集し、事に当たらなければならぬ一大事業です。我々も微力ではあっても、我が国の農本回帰自治確立のために為すべきことは為したいと思ふ。

今後とも日本の自治について進展があれば、この場にて報告したいと思えます。日本自治会の進展は楽しみですが、自治の根本はいつでも自らの一身と共同体の核にある「家」の生活にあります。道を近く思い切りに行い学ぶことが全ての基本です。ここを疎かにしては、自治など夢のまた夢なので、今年も一層己の為の学に励みたいと思えます。

### とよくも農園だより

「あけまして、おめでとうございます。」

起床してリビングに行くとき、正座をして家族に朝の挨拶をするところから三浦家の元旦が始まりました。昨年からは、起床したら家族全員に向かって正座して挨拶をすることにしており、これは子供たちも含めて全員が毎朝行っています。膝と手を床につき、頭を下げることで謙虚になり、穏やかな朝が迎えられます。挨拶がすむと、今年の家族での目標を相談しました。コロナ禍で中止している当会の行事の再開や、論語師説に取り組むこと、米・大豆の自給自足等、新たな気持ちで今年の抱負を話し合い、筆で清書して壁に貼りました。子ども達も起床すると、全員で神棚に参拝した後、毎年訪れている近くの出雲神社へ新年のご挨拶に行きました。近所にある出雲神社は、私達が新居浜から農業に通い、周桑地域で空き家を見つけるのに苦労していた時に紹介していただいた神社で、参拝後、諦めて新居を計画していた矢先、導かれたように理想的な現在の家と出会ったご縁のある神社です。毎年参拝しており、今年も家族一同、感謝と今年の抱負を神様に報告しました。

三浦 美恵



農業の方は、年末年始にかけて毎年恒例のアスパラガスの片づけを行いました。一年間かけてニメートル程に育ったアスパラガスの株を全て切っていきまます。その株をハウス外に運び出し、株元は消毒のためにバーナーで焼き、堆肥や肥料を入れてかき混ぜ、ならしていきます。アスパラガスは、このように焼いてしまっても根が生きていれば何度でも芽を出す強い野菜で、二重にビニールをかけて覆っていると、二週間後、新たな芽が始めました。束の間のお休みも終わり、来週からは本格的にアスパラガスの収穫が始まりそうです。

ネギはトンネルをして様子を見ていましたが、曇りの日も多く、上旬には収穫できませんでした。また葉先枯れも多く、トンネルをしているため収穫もしづらく、慣れてきたと感じていたネギの栽培も、まだまだ改善できる点がありそうです。

また、今月は農耕車限定大型特殊免許の取得に向けて、頻繁に松山の農業大学校に通いました。現在使用しているトラクターは小型のため、免許は必要ありませんでしたが、購入を検討している中型・大型のものは免許が必要です。主人と義弟そろって早朝から出発します。帰ってくる、長い講義と運転に二人とも少し疲れた様子ですが、お風呂を済ませ、家族揃って夕食をいただき、就寝準備をしていると、その顔も少しずつ和んできます。主人とはよく、「家族揃ってご飯を食べ、日中も共に働き、一緒に寝ることがができるのは帰農したからですね、幸せですね。」と



話をします。寝る前は向かい合って正座して感謝の祈りを捧げ、手をついて「おやすみなさい」と挨拶をして、清らかな気持ちで布団に入ります。帰農して四年。生活も一変し、日々三浦家が理想的な自治の在り方に近づいていっていると感じます。今年の家族目標には「養」の字を選びました。私も農業の傍ら日々自らを「養い、進化し続ける三浦家を支えていけるよう、今年も精進して参ります。皆様どうぞ、本年もよろしくお願いいたします。

★今後の予定

先月に引き続き個別での勉強会の対応をさせて頂いています。ご希望の方は事務局までお電話ください。

★一燈照偶 万燈照国

ひの心を継ぐ会は竹葉秀雄・近藤美佐子両先生の精神を継承し、発展させることを目的として生まれた会です。一人の「ひ」の精神が周囲の人々の心に「ひ」を燈し、やがてそれが国を照らす「ひ」になることを願い、活動を行っております。皆様には何卒ご理解とご支援を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

★年会費

- 一般会員 三千元
- 賛助会員 一万円
- 特別賛助会員 三万円
- 支援会員 一万円